

恋路島の価値を未来につなぐために



恋路島は 水俣湾の入口に浮かぶ タブノキの自然林に被われた 無人島です

恋路島には、島への想い その名前の由来となった逸話 島で遊んだ思い出など 多くの「物語」があり 対岸から望む島影は 今も水俣の人々の心の中に ふるさとの風景を 描き続けています



航空写真: 2009年/国土地理院

水俣市が、「公害のまちから環境のまちへ」と大きく舵を切って30年あまりが過ぎ、水俣湾を取り巻く様相には大きな変化がありました。

水俣湾の入口に位置する恋路島も一度伐採された木々が再生し、水俣湾の 水質とともに自然回復の姿が確認され ています。

そのような中で、恋路島を水俣湾再生のシンボルとして、また、水俣市民の共有財産の1つとして活かしていく方策が、長年模索されてきました。

水俣市では、平成27年度に、恋路島 に関わりのある団体等からなる「恋路 島利活用検討委員会」を設置しました。

その委員会から提出された恋路島利 活用に関する7つの提言からなる「恋 路島利活用に関する提言書」を受け、 平成28年度は、恋路島を守り、育み、 利活用していくルールやシステムを検 討しました。



恋路島利活用に関する提言(平成28年2月)

提言1 「海を蘇生させ る森の力」を大

切にすること

提言2 「恋路島の森が 育てる漁場」を 守ること

恋路島の価値

提言3 「自然の力と 地域の歴史を 学ぶ場」として 活かすこと 提言4 「恋路島を水 俣湾を取り魅力 を高める牽引 役」とすること

提言7

市政の中における恋路島の位置づけを他 の施策や市民の取組との関係の中で明確 にすること

> 守り、育み、利活用していく ルールやシステムの検討

提言5 調査活動を踏まえて 適切な利活用方法と 案内・管理体制を整 えていくこと 提言6 森と漁場に与える負 荷ができる限り少な い渡航・上陸・探索 手段を検討すること

恋路島の姿

明神崎のエコパーク水俣から臨む恋路島は、手の届くような 所にあります。島は森で被われ、海岸は切り立った海蝕崖と砂 礫質の浜とで構成されています。

島の西端(笠瀬崎)には灯台が設置されています。

島内での活動のため、以前に整備された遊歩道、井戸やトイレも残っています。

恋路島周辺海域では、「恋路カキ」と名付けられたマガキやアオサの養殖が行われています。

所在地:水俣市 濱 小路島

面 積: 225,838 ㎡

地 形: 塔の崎から南西に尾根が走り、ピークは標高37.4m(二等三角点)です。北西の海岸に沿って尾根(ピーク:23.5m)があり、この2つの尾根の間にややまとまった平坦地があります。笠瀬崎の先端にある灯台から南西に向かって尾根(ピーク21.7m)があります。

海岸線: 浜となっている部分を除く主だった海岸線は、2m~5m程度の安山岩の岩盤が露呈した崖となっており、安山岩特有の板状節理が見られます。

浜 :島の北東および北に面した浜(①北西の浜)は、平板に摩耗した岩石(5~10cm)の浜で、島の南東および南西面した浜(恋が浦②、桟橋のある浜)は、砂礫質の浜となっています。

崎 : 針の目崎から南西に向かって、満潮時には水没する岩礁 が延びています。また、笠瀬崎の突端に妻恋岩があり、干 潮時には、渡ることができます。

桟 橋:小型船舶が停泊できる自然石を積んだ桟橋があります。 潮の干満に応じて係留の位置を調整します。

養殖場:マガキ、アオサの養殖場が桟橋と隣接しています。

沿岸域の状況





尾根ライン: ■ ピーク: ▲ 通路*: ■ 灯台: ★ 井戸: □ トイレ: △ 航空写真: 2009 年/国土地理院 *2015年の調査で確認された通路

恋路島を活かした活動



植物観察

植物学的に見ても貴重な島で、大径 木化したタブノキの純林やクスノ キ、ヤマモモ、浜辺のハマナツメや ナガミノオニシバなどの希少種を観 察します。



島内探検

イノシシやイタチの仲間などの生き物が棲息している痕跡など を観察しながら、森の中の道を歩きます。海の魚を狙うミサゴ やハヤブサなどの野鳥も観察できます。笠瀬崎の突端にある灯 台からは、不知火海に浮かぶ島々の眺めを楽しみます。



磯遊び

イソギンチャクやカニ、ヤドカリなど 磯の生き物を観察します。 潮だまりでは、小魚や色鮮やかなウミ ウシを見ることもできます。



【活動団体】 活動団体及び活動内容についてのお問い合わせ先:水俣市役所 政策推進課 TEL:0966-61-1606

水俣市漁業協同組合

恋路カキ・アオサ養殖、漁師市、カキ小屋開催

海岳 (mitake)

体験型環境教育・野外体験活動の企画・運営 シーカヤックやトレッキングガイド、自然体験

水俣ダイビングサービス SEA HORSE

体験ダイビング・スノーケリングコース等の開催、海中調査・撮影、現在の水俣の海中を紹介

水俣自然学校

地域にある自然・暮らし・生活文化に触れる体験 プログラムの企画・運営

水俣アウトリガーカヌークラブ

体験イベントや練習会の開催(春~夏)

(一社) 環不知火プランニング

水俣・芦北地域の教育旅行や視察研修をトータ ルに企画、受入するコーディネート機関



スノーケリング

水俣湾の再生に大きな影響を持つ 恋路島の自然の魅力を体感します。 小中学生を対象としたネイチャー スクールで恋路島を訪れています。



カヌーイベント

子どもから大人まで楽しめるアウトリガーカヌーやシーカヤックで行く恋路島グルッと一周ツアーです。普段見ることのない恋路島の裏側、妻恋岩や侵食された奇岩絶壁などを満喫します。



水俣湾の無人島探検

関西、関東から訪れた中学、高校生が 恋路島に地元の人たちと漁船やシーカヤックで渡り、海や生物たちとの出 会いを楽しんでいます。



漁船でめぐる水俣湾

不知火海の潮の香りと風を感じるフィールドワーク。漁師やフィールドパートナー(地元案内人)と船に乗り、ゆったりとした海を感じています。画像のような天草に沈む夕陽に出会えれば、大切な思い出になります。





マガキの養殖

『恋路カキ』の名で販売し、12月~4月にはカキ小屋(道の駅みなまた内)で味わうことができます。

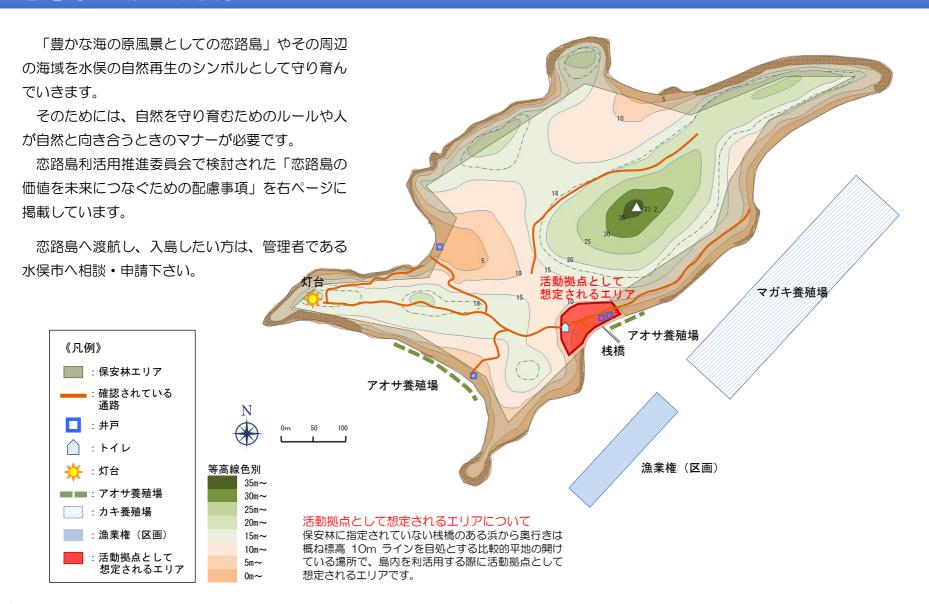




ダイビング

海中の四季とそこに暮らす生き物たちの 多様性や豊かさを体験・観察。 クロダイなど海の生き物達は危害を加え ないことが分かると安心してダイバーの 傍まで寄ってきます。

恋路島の自然を守り育むために



全体方針

●島および周辺海域の自然環境を保全する。

島内の保守・保全

- ●桟橋から島内への通路を確保する際は、立木の伐採等は極力 行わないようにする。
- ●行事等において通路を利用する場合、主催者は、恋路島管理者(水俣市)と協議の上、安全確保のための刈り払い・倒木除去等を行うことができる。
- ●島の外周の森は、桟橋付近を除いて保安林に指定されてお り、立木の伐採や土地形状の変更はできない。
- ●活動の拠点として想定されるエリアの整備に伴う伐採や形 状変更等は必要最小限に抑える。
- ●島内施設の整備については、島の利活用状況に応じて検討する。

禁止行為

- ●島内での喫煙
- ●ゴミ等の投棄や持ち込み
- ●島外からの植物やペット等の持ち込み
- ●水俣市の許可のない以下の行為
 - ・ 通路以外の場所への立ち入り
 - 島内での動植物の捕獲・採取、伐採等
 - キャンプや火気の扱い

渡航

●恋路島の入島・渡航に当たっては、水俣市に相談した上で、 入島許可申請の手続きを行うものとする。

相談•申請先:水俣市財政課契約管財係

TEL: 0966 - 61 - 1605

上陸人数の制限

●入島人数は、原則として 20 名/回以下とする。但し、20 名を越える場合は、水俣市との協議を行うものとする。

操船•接岸

- ●島周辺での操船は、養殖イカダ等に注意を払うとともに安全 に配慮し、動力船は低速運行とする。
- ●ガイド・船頭が風向きや風速、波高等によって渡航を危険と 判断したときは渡航を中止する。
- ●動力船の島への接岸は、原則として桟橋のみとする。

水俣湾における漁業権について

「漁業権」とは、一定の水面において漁業を営む権利のことです。 水俣湾においても、漁具や養殖施設を毀損(きそん)する行為や 以下の水産動植物の採捕などを行うことは禁止されています。

あおさ・青のり・わかめ・ひじき・てんぐさ・とこぶし・あわび さざえ・ぎんたかはま・かき・あさり・たこ・しゃこ・うに・なまこ 等

恋路島の自然環境

恋路島は、1960年頃までは人が住んでおり、キャンプや海水 浴場としても利用されていました。

航空写真①は、1970年代の全島伐採後の恋路島の状況です。 島を被っている樹木はなく、一部の地域を除いて、疎らに木が生 えている状況でした。現在では、航空写真②のように、常緑広葉 樹で被われた緑豊かな自然溢れる島として再生しています。

<自然景観>

島の海岸線は、浜となっている部分を除くと、多くは安山岩の海 蝕崖となっていて、そこでは安山岩特有の板状節理が見られます。 特に、笠瀬崎の北側の海岸は 10m を越える垂直に近い絶壁となっています。

浜は砂礫質の浜景観となっています。

<植生>

島全体は、スダジイやタブノキなどの常緑広葉樹で被われており、島の内陸部はタブノキの純林となっています。

恋ケ浦海岸には、準絶滅危惧種に指定されているナガミノオニ シバの群落があります。希少種のハマナツメも育成しています。

<鳥類・ほ乳類>

ミサゴやハヤブサ、トビなどの猛禽類が見られます。また、イノシシ、イタチ類のほ乳類の糞や泥浴の痕跡も見られます。





航空写真: 国土地理院



スダジイ林

恋路島と周辺海域の生き物





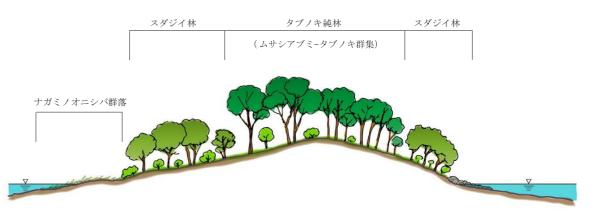
タブノキ純林

島の中央部に約8 haにわたってタブノキ林が形成されている。胸高直径 20cm~30cm 程度の木が生育している。高木層は樹高 12~15m でタブノキが優占し、スダジイ、クスノキ、ヤマモモ、ナナミノキ、ハゼノキなどが占めている。その他、ヒサカキ、シロダモ、ハクサンボク、イヌビワ、ノシラン、フウトウカズラ、ムサシアブミなどが生育する。





ナガミノオニシバ群落 砂礫地に成立する短径の塩生湿地草原で芝生状の群落を形成している。満潮時には海水に没するが、干潮時には強く乾燥するところに生育している。準絶滅危惧種となっている。





タブノキ混交林 タブノキのほかクスノ キ、ヤマモモ、ナナミノ キ、ハゼノキ、アラカシ などが生育している。



スダジイ林 島の沿岸部の緑地は主にスダジイ林で覆われている。このベルト状の樹林は保安林で防風·防潮林の役目も担っている。沿岸部の植生はスダジイのほかトベラ、シャリンバイ、ハクサンボク、マサキなどが生育している。





アカモクの海中林 撮影:針の目崎

島の沿岸水深約 1~6m の岩礁域では春にアカモク、ヒジキ、ワカ メを中心とした藻場が形成される。 特に島の北東部、七ツ瀬では 高さが 3m 前後にまで成長したアカモクによる広大な海中林(海中 の森) は圧巻である。海中林の間には産卵のため多くの生き物が集 まり、孵化した稚仔魚の隠れ家・餌場となり『海の揺りかご』と呼 ばれる。



マガキ (恋路カキ)の養殖

島に守られた穏やかな南側の海域を 模湾以南、水深 2~20m に普通に分 利用し 2014 年ごろから始まった水 布。恋路島周辺や水俣湾全域では 俣湾でのマガキ養殖。水俣湾のマガ 20種を超すサンゴが棲息するが、 キは、1 年もので小粒だが旨味が凝 その中でも代表的なイシサンゴの 縮され味が濃いのが特徴である。



キクメイシ

一つである。



タツノオトシゴ

ジ色の美しい個体が生息。春、繁殖期 になるとオスは腹部の育児嚢(育児 存在感は名前の錦(ニシキ)にふさ ガゼ)等の生息域拡大やそれに伴う 嚢)でメスの卵を預かり抱卵を行う。 海洋開発などにより全国的にその生 息数の減少が危惧される種である。



ニシキウミウシ

水俣湾には全国的にも珍しいオレン 水俣の海でも約 140 種のウミウシ 東京湾以南、水深2~4mの岩場に わしいウミウシである。

(体長:約12cm)



アカウニ

を確認。その中でも体色の美しさと 生息。水俣湾では外来種のウニ(ガン 藻場の減少により生息数の減少が危 惧される。

水俣市の土地台帳に記載されている恋路島の地名は「小路島」です。

史料によれば、恋路島は、古くは「こぎ島」「こき島」「こじ島」と呼ばれていたようですが、「恋路島」と呼ばれるようになった由来は、天正年間にあった島にまつわる若き武将と新妻の物語と言われています。

「小路島」が、「恋路島」と表記され始めたのは明治の後期頃で、「明治四十四年八月製図 熊本県芦北郡水 俣陣内・丁良親」には、「恋路島」と記されています。

現在、水俣市では、恋路島の名前を活かして、島を 臨むエコパークのデッキに恋人の聖地のモニュメント を設置するとともに「初恋のまちづくり」を推進して います。



「恋路島」の変遷

戦国・江戸時代

天正 12年(1585)、島原の有馬義純と肥前の竜造寺隆信の戦い に出陣した薩摩・島津軍の若き武将と新妻にまつわる物語が伝え られています。江戸時代に編纂された「肥後国誌」に「古路島、 古木島」として登場します。

明治·大正時代

明治後期から「恋路島」名称が使われ始め、大正時代に定着してきます。

「一度この島に遊び漁船に投じて島めぐりをなさんか、真に快絶 愉絶の佳境に入らざるものなしと言う」と大正四年発行の「水俣 町郷土誌」に記載されています。

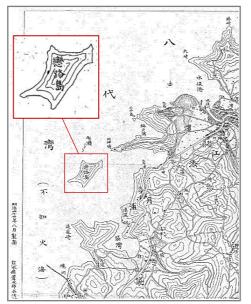
昭和時代

昭和初期まで「山守」が住んでいたという記録があります。太平洋戦争後まもなく少年保護施設「二水海洋学園」が開設され、昭和25年に移転するまで青少年たちが田んぼや畑を作り暮らしていました。昭和26年、水俣市がキャンプ村を開設し、海水浴客など多くの利用者で賑わっていましたが、利用者の減少に伴い昭和35年に閉鎖され、無人島になりました。昭和63年からは水俣市の所有・管理になっています。

平成~現在

平成4年、「みなまた環境考動会」が発足し、恋路島を環境再生の シンボルにしようとする取り組み(小道づくりやキャンプ体験) が行われました。現在は、恋路島を利用する団体等により清掃活 動等が行われています。 古路島井懸ノ浦塔 又古木島氏云周廻一里アリト云蚫多シ島番ノ陸夫一軒アリ島中悉ク松山也姥カ 懐池ノ浦 ゆっと 島番ノ陸夫一軒アリ島中悉ク松山也姥カ 懐池ノ浦 ゆっと 上左京売此袋江ヨリ飛船シラ軍艦粮ヲ解ク河上カ妻妾此所ニ寨と水リ石ヲ積テ塔トシ左京カ武邇ヲ解リシ迹ト云 京院 第2 水リ石ヲ積テ塔トシ左京カ武邇ヲ解リシ迹ト云 京於諸所死亡スルモノ甚多シ其妻妾此所ニ來リ 追慕シラテ於諸所死亡スルモノ甚多シ其妻妾此所ニ來リ 追慕シラ 佛事ヲ 管ミ石ヲ拾ヒラ組タル塔也凡云是非ヲ不知此所ヲ 塔カ鼻ト云

「肥後国誌」大正6(1917)年 後藤是山編纂(1971年出版の復刻版より)



「明治四十四年八月製図 熊本県芦北郡 水俣陣内・丁良親」 水俣市立図書館蔵





キャンプ場として賑わった頃の恋路島。昭和32年建設の灯台は灯台遊園地として利用されていました。 「新水俣市史下巻」より

恋路島物語「新水俣市史民俗・人物編」第5章伝説と民話より抜粋

この物語は、当時九州制覇を目論んでいた肥前の竜造寺隆信が、天正 12年 (1585) 3 月、島原の有馬義純を攻めた時、有馬義純の依頼で援軍として出陣した薩摩の島津軍の若き武将、川上左京亮忠堅 (かわかみさきょうのすけただたか)とその新妻にまつわる物語です。

竜造寺隆信から攻められた有馬義純は、朋友関係にあった薩摩の島 津義久に助けを求め、島津軍は、当時薩摩領であった水俣に兵を結集 し、袋湾に軍船を揃え出陣した。

川上左京亮忠堅の新妻は他の人達と共に出陣兵士の武運を祈って袋 湾まで彼を追い、別れを惜しんだ。この時、袋の村人達は棒踊りを踊っ て歓送したと言い、袋の棒踊りはここから始まったと言われている。

左京の妻は、岸を離れ次第に沖に霞んで行く軍船を人陰から見送っていたが、夫を恋うる心を抑え切れず、遂に小舟を雇って水俣湾に浮かぶ小島(恋路島)に渡り、石室に籠り、海辺に石を積み上げて、夫の武運を神仏に祈り続けた。しかし、この強い恋慕の思いを募らせたまま、夫の帰りを待たずして哀れにも一人淋しく島でこの世を去ったと言う。

敵の総大将竜造寺隆信の首を討ち取り、最高の武勲を立てた左京は、一時も早く、待っている最愛の妻のもとにこの悦びを伝えようと帰って来たが、待っているはずの妻は左京の帰りを待たず、既にこの世を去っていた。左京は、妻が小島で一人吾が名を呼び続けて逝ったと言う悲報をきき、直ぐにその島に渡り、夫を恋うる一念で築いたという石積みを抱きしめ、今は無き妻を恋い慕いながらその名を呼んで泣いたという。

その石が恋路島の西端にある妻恋岩として名残を留めており、恋の 浦の波音が今もなお過ぎし日の美しいロマンを語り続けているようで ある。

【参考文献】

- ■肥後国誌 宝永3(1706)年/井沢蟠龍が『肥後国誌』17巻をまとめ、明和9(1772)年『肥後国誌』25巻、明治17(1884)年、増補校訂版が出されている。
- ■水俣町郷土誌 大正4(1915)年8月/古閑五八郎(水俣尋常小学校校長)
- ■新水俣市史 民俗・人物編 第5章 伝説と民話 『28. 恋路島物語』、新水俣市史 下巻 第14章 第7節 その他の景勝地 『恋路島』
- ■郷土文化史「千鳥巣」平成 14 年若鮎号 『恋路島はいつから』 金子 昭



妻恋岩と夕日

発 行:水俣市

発行年:2017年3月

エコパーク水俣/(一社)環不知火プランニング/海岳 水俣自然学校/水俣アウトリガーカヌークラブ 水俣ダイビングサービス SEA HORSE/澤 治彦